

【様式①】令和5年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 島小学校
校長名 野原 美登里

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	・「生命の尊重」の観点からいじめのない学校づくりに向け組織的に取り組む。 ・将来にわたって生きていく力を育むため、児童が自己決定し自己存在感を実感できるような機会を増やす。 ・英語科の授業では英語に慣れ親しみ積極的に使っていく姿勢を育てる。	B	・いじめ問題に関しては早期発見、対応に努め、迅速に情報を共有し問題が大きくなるいううちに解決に当たることができた。 ・全校体制で「学び合い」学習に取り組み、日頃の授業の中で、一人ひとりがより活躍できる学習を追及することができた。 ・担当やALTの働きかけで英語に対する興味を喚起することができた。	・授業になじめない児童もサポートの先生が寄り添っている姿があった。「ここタン」や心のアンケートなど児童がSOSを出せるシステムがあってよい。グループで勉強を教え合う姿やクラス全員で合唱をする姿がほほえましい。 ・英語の掲示物が少ない気がする。もっと英語の掲示物があってよい。	・いじめ問題に関してはゼロではなく、いじめにつながる課題も多い。改めて早期発見、対応に努め、迅速に情報を共有し問題が大きくなるいううちに解決していく。さらに「心の教育」をすすめて、思いやりのもてる人間関係作りに努める。 ・英語を楽しく学ぶ雰囲気づくりを推進する。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	・児童の健全な発達、安全な生活を創るため、保護者、PTA、児童見守り隊、学校支援推進委員、学校ボランティア等社会・地域と連携する。 ・中学校区で連絡を取りながら「あいさつ運動」など足並みをそろえ協力し合う。	B	・児童たちはあいさつに自信をもっており、あいさつ運動に活発に取り組んでいる。学校を訪問された方や、地域からもある程度の評価を受けている。 ・校区でも「あいさつ運動」は活発だが、他校や中学校と互いに連携しあう点において課題が残る。	・保護者、PTA、見守り隊、学校支援推進委員などの連携がまだまだうまく取れていない。登下校のあいさつで、まだまだ照れがあり声が小さい気がする。児童が元気にあいさつしてくれれば、地域の大人もあいさつしがいを感じる。 ・枝豆づくり、販売などの島小独自の活動ができなかったのが残念。	・児童会の活動を活発化させるとともに、児童が主体となり、中学校区で連携を取り、あいさつ運動を広げる。 ・島小独自の活動として、枝豆栽培と販売に挑戦する。この活動を児童が中心となりながら全校で取り組むことで地域に誇りを持つ心情を育てる。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	・互いの良さ・持ち味を認め合い協働できる関係を築くために、気軽にコミュニケーションが図れる職場の雰囲気醸成する。 ・打ち合わせやICTの活用で情報を共有し、共通の課題に全職員が同じ意識で向かえるようにする。	A	・協力して課題に向かうことで、職員の結束が固まり、信頼関係を築くことができた。日頃のコミュニケーションを大切にしたり、親睦レクリエーションをしたりすることで、打ち解けた雰囲気が生まれ風通しの良い職場に近づいている。 ・メール回覧をデジタル化することで、いち早い情報の共有を可能にした。また、紙使用の削減にもつながった。	・学校に行くくと児童があいさつをしてくれあたたかい気持ちになる。児童と先生方の関係がよいと感じた。先生が児童に対して声掛けをし、温かい雰囲気ですべてを進めていた。 ・ICTもよいが中にはゲームをしている児童もちらほらいる。	・職員数が多い分、情報の共有に課題があるが、ICTを活用しながら共通意識をもって問題解決に当たる。 ・同時に職員が顔を合わせて話し合うなど、直接言葉を交わすアナログな交流も大切に、気軽にコミュニケーションが図れる職場の雰囲気を醸成する。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	・感染症予防対策の新しい学校生活様式の徹底を図る。 ・食の安全、熱中症対策、交通安全、自然災害時等の未然防止について家庭、地域との連携を密にして取り組むと共に、緊急時の教職員の共通理解、共通行動を徹底する。	B	・中休み、昼休みでの外遊び奨励により、健康な体作りに取り組むことができた。換気、手洗い、必要に応じたマスクの着用などにより、感染症予防などに務めた。 ・「命を守る訓練」の実施などでいざとなった時の避難について体験的に学ぶことができた。	・児童数が多いので全体的に空きスペースが少なく、廊下にロッカーなどが設置されごちゃごちゃしている印象がある。 ・特に下校時に道に広がる、横断歩道のない道路を横切る、など児童の危険な姿を目にすることがある。 ・コロナ、インフルと様々な感染症が流行るので、引き続き予防はしっかりしたい。	・廊下や窓際のロッカーなど防災上妨げになるようなものは改善を図りたい。 ・能登半島地震などの例から、改めて災害について学び、児童が必要感をもって「命を守る訓練」に参加する姿を目指す。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	・ICT機器を効果的に活用し、学び合いのある授業づくり、家庭との連携、効果的な働き方づくりなど教育DXを推進する。 ・学校施設の定期点検を確実に実施し、適切な対処(修理・修繕等)を迅速に行い、安全な環境を整備する。	A	・研修会を行い、多くの先生がロイノートを使った授業実践ができるようになった。また、講習会を実施し、6名がロイノート認定ティーチャーとして登録された。 ・校内施設も老朽化し修繕要望は多くあるが、切れかけた電灯は順次LEDに交換する等できるだけ早い対応に心がけた。	・板書とタブレットの併用ができていてすごいと感じた。児童もタブレットを上手に活用している。 ・電子黒板も導入されより便利になっている。スマート連絡帳も有効に活用されていると聞く。 ・トイレの環境がよくない。使用禁止の札が貼ってある便器もある。洋式化を進めてもらえると安心安全である。	・多くの職員がICTを使いこなせるようになってきたが、さらに研修や工夫を重ね、教育DX化を推進する。『学び合い』学習と絡めながら個別最適な学習を進めていく。 ・学校の危険箇所や、トイレなど修繕が必要な箇所は、速やかに改善できるように働きかける。

HPアドレス: <http://gifu-city.schoolcms.net/shima-e/>